

あしたば

令和5年12月15日発行

現在会員数 253名

男性 133名

女性 120名

(R5. 11. 30現在)

題字：雨宮博雄

編集・発行 公益社団法人八丈町シルバー人材センター

〒100-1401 東京都八丈島八丈町大賀郷2551番地2

TEL. 04996-2-4666 FAX. 04996-2-5355

E-mail hachijo@sjc.ne.jp

URL. <https://www.sjc.ne.jp/hachijo/>

理事会開催報告 11月21日(火)午前10時から、八丈町役場大会議室において「第7回理事会」が開催されました。主な議題は次の通りです。

1 承認事項

1)会員の入退会について

入退会についてすべて承認

2 報告事項

1)令和5年10月の事業実績について
公共・企業等は微減も、家庭からの受注が件数・金額増となったことを報告

2)安全就業巡回指導について

10月27日(金)に実施された内容について説明、報告

3)適正就業巡回指導について

11月16日(木)に実施された内容について説明、報告

4)手作り作品展について

11月16・17日開催の作品展について報告

3 その他

1)職員の期末勤勉手当に関する基準及び給与規程の一部改正について

2)配分金改定について

3)温泉の就業について

4)「温泉で顔パス」の実証実験について

5)入浴衣について

6)避難訓練とマニュアル作成について



適正就業巡回指導 11月16日(木)、東京しごと財団シルバー人材センター課シルバー運営担当係による「適正就業巡回指導」が実施されました。

午前、酒井麻里係長・中村香織主事・後藤亘輝主事による「シルバー人材センター指導事業に係る調査票」を基にヒアリングが行われ、奥山拓事務局長と小室寿哉主任が対応しました。

午後は、青木英和適正就業指導員が加わり、現場で就業会員へのヒアリング後、第2会議室にて講評をいただきました。契約書については概ね問題はありませんでした。

ご指摘いただいた点につきましては、改善に努めます。



手作り作品展を開催しました！

11月16日(木)9時～17日(金)13時まで、八丈町民ギャラリーにて、センター初の作品展を開催しました。

出品者16名、出品数128点、来場者数は111人でした。

観葉植物・写真・手芸品・折紙細工・書道作品とバラエティに富み、来場者にも大変好評でした。

作品展へのご協力・ご来場ありがとうございました。



研修報告

理事 小宮山 進

第2ブロックシルバー人材センター合同役員研修会に、11月27日奥山拓事務局長・玉置定子監事と私小宮山が参加させて頂きました。

会場 文京区春日 アカデミー茗台レクリエーションホール

内容 「腸活について」

最初に文京区シルバー人材センター坂巻三登会長の挨拶で始まり、東京ヤクルト販売株式会社健康サポートユニット広報チームの伊藤氏・北原氏を講師に始めました。

お腹の仕組みについて色々学びました。

便は健康のバロメーター、加齢に伴い有害菌が増えるそうです。(腸内フローラ)ポイントはストレスが一番、ストレスをためないこと、水分、食事、クスリ。

腸を大事にするには便秘下痢をしないように、出ても出なくても毎日トイレに行く習慣をつけるということです。

このようなことを学んできました。

生活習慣は大事だなと思いました。

まとめで、大腸がんは便秘下痢も関係があるとの話があり、研修会が終了しました。



菊池民一翁の立志伝

八丈町役場正面玄関に向かって左側、庁舎を訪れる人々を見守る眼鏡をかけた柔和な老人の胸像は「菊池民一翁の寿像」。今、この人のことを知っている町民がどのくらいいるでしょうか。

像の右側に、翁の業績と像を建てた人々の思いを記した銘板があります。菊池民一氏は、1887年(明治20)中之郷の生まれ。20歳近くになって上京、煎餅屋で働きながら勉学に励み、暖簾を分けてもらって独立してから大学に進学。5年かかって卒業したときには30歳になっていました。司法試験にも合格し、1926年(昭和元)39歳で当時の牛込区(1947年淀橋区・四谷区と合併して新宿区)議会議員に当選、その後1933年から東京市議会議員を3期、1943年からは東京都議会議員を務め、1969年に隠退するまで43年間、地方自治の第一線で活躍しました。1951年(昭和26)から1年間は、議長として復興期の都議会をまとめました。都議会議長は全国都道府県議長会会長を兼ねるので、識見・手腕・人徳から最有力視されていた民一氏に決まったとの報に島中が湧きました(『南海タイムス』)。

その頃から、有人離島がある全国の都道府県で、離島の社会資本充実・生活環境改善に目が向けられるようになりました。1953年(昭和28)1月、長崎県の呼びかけに東京・新潟・島根・鹿児島が呼応し、離島振興法制定に向けた運動が始まりました。都議になった民一氏が最も力を入れたのがこの運動でした。

民一氏と親交のあった葛西重雄氏は、離島振興法成立のために奔走する民一氏を支えた春江夫人の「内助の功」を印象的に記しています(『八丈島青ヶ島墓誌碑文集成』)。「演説の原稿を起草し、毛筆で清書してくれたので、自分は読むだけでよかった。」と信頼の大きさを語り、また、民一氏が振興法制定のための活動に自費をつぎ込んだので、「妻には貧乏を我慢してもらったが、お蔭で法案成立ま

で、全国の離島を駆け回ることができた。法案が成立した時、やれやれと思って家に帰ったら、物資不自由の時だというのに何処で工面をしてきたものか、お赤飯を炊き、もろもろのご馳走でお膳を飾り、法案成立を喜んでくれた……嬉しくて嬉しくて涙が止まらなかった。」。53年7月15日のことでした。

その頃の八丈島は、7つの村に分かれていました。電気・水道、港湾・空港、道路などの社会資本や教育・医療などの生活環境の基盤を整備するためには国や都の助成が欠かせません。それを実現するには7つの村が単独で要望するより、八丈島としてまとまった振興計画を立てる必要がありました。それまでは必ずしも円満とは言えなかった村々がひとつになって「八丈町」を作ろうという合併への機運はそうした事情を背景に生まれたのです。

民一氏は、1959年(昭和34)から東京オリンピック招致委員会、準備委員会の委員長として64年(昭和39)の大会実現に尽力しました。

民一氏の若い頃は、八丈から上京して生活するためには伝手を頼って煎餅屋の丁稚小僧になるのが早道でした。八丈島出身者の煎餅屋は、1902年(明治35)三根村出身の田代幸六氏が京橋区八丁堀で開業したのが元祖で、昭和初期には、東京を中心に九州まで、「花見煎餅」「幸煎餅」の暖簾で営業する100軒以上のほとんどが八丈出身者だといえます(永久保満『趣味の八丈島誌』)。民一氏も青年時代は煎餅を焼きながら暮らしを支え、飛躍へ夢を育んだのでしょう。

現在、「登龍峠」に建つ石碑が八丈島を巣立った青年の心意気を伝えています。離島振興法は、それから10年毎に延長を重ね2023年(令和5)7回目の改正が行われました。(了)

八丈島歴史民俗資料館
伊藤 宏



令和5年度事業実績							
月	区分	受託件数	就業延日人員	契 約 金 額			計
				配分金	材料費	事務費	
11月	公共	43	1,454	8,112,981	280,767	743,371	9,137,119
	民間	19	202	1,039,007	33,890	101,264	1,174,161
	計	62	1,656	9,151,988	314,657	844,635	10,311,280
累計	公共	378	12,709	70,300,487	2,815,716	6,200,955	79,317,158
	民間	166	1,288	6,394,770	231,041	612,505	7,238,316
	計	544	13,997	76,695,257	3,046,757	6,813,460	86,555,474

11月末会員数 253名 就業実人員 151名 就業率 59.7%

令和5年度派遣事業実績					
	受託件数	就業延日人員	契 約 金 額		計
			賃 金	手数料等	
5年度累計	2	340	1,142,830	386,543	1,529,373



— 八丈町 SC 安全就業標語 —
 仕事場で イライラしない 思いやり
 老いて日々 新しいこと 生き生きと



会員入退会状況(11月分)

入会者 よろしくお願ひします
 女性 1名
 退会者 お疲れさまでした
 女性 2名

就業相談のお知らせ (要予約)

日時 1月15日(月)午後3~5時
 場所 八丈町役場第2会議室
 申込 お電話ください ☎ 2-4666

事務局より **来月の配分金支払日は、1月15日(月)です。**

今年もセンター事業へのご協力、ありがとうございました。

年末年始の事務局の業務について

12月29日(金)~1月3日(水)は、休ませていただきます。

年末年始に就業される会員の方へ

緊急の場合は職員にご連絡ください。

1月4日(木)より通常業務となりますので、よろしくお願いいたします。

